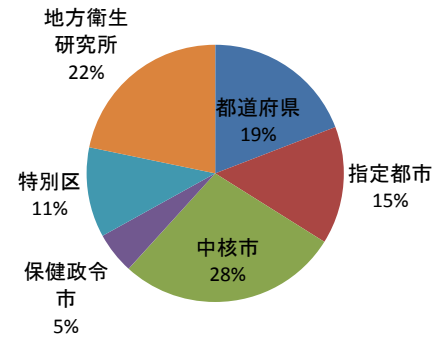


性感染症サーベイランスの運営と結果活用に関するアンケート結果 H25年12月実施
 実施者 「自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究班」(主任研究者:松井珠乃)
 分担研究「STIサーベイランス戦略」(分担研究者:中瀬克己)

回答割合

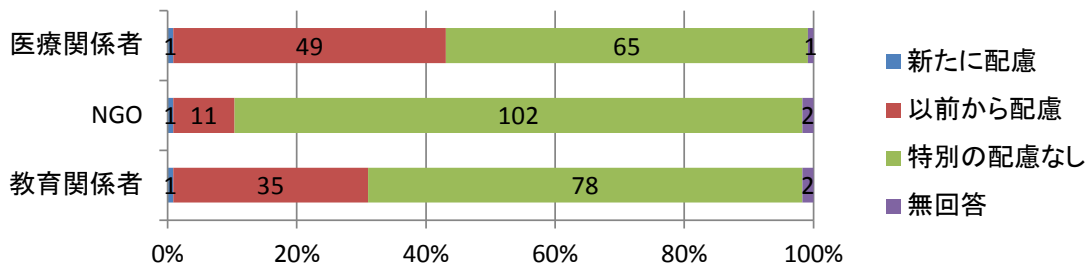
全体	配布数	回答数	回答割合
区分別			
都道府県	216	115	53.2%
指定都市	47	22	46.8%
中核市	20	17	85.0%
保健政令市	40	32	80.0%
特別区	8	6	75.0%
地方衛生研究所	23	13	56.5%
	78	25	32.1%



各設問

<発生動向調査の還元・活用について>

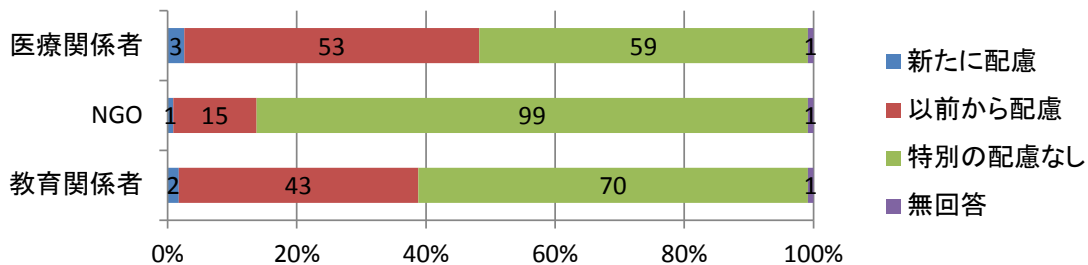
1. 性感染症、B型肝炎等の発生動向を下記関係者に届きやすいように配慮して還元／広報していますか



上記の例やその他の関係者:

- 1 報道機関へ毎週投げ込み
- 2 東京都感染症情報センターのホームページに掲載している
- 3 区の発生動向調査週報をファクス配信している
- 4 関係機関を集め、年に1回会議を開催し情報を提供している
- 5 県医師会へ情報提供している
- 6 医療・教育・社会活動関係行政機関
- 7 県立病院
- 8 大学病院関係者
- 9 県教育委員会

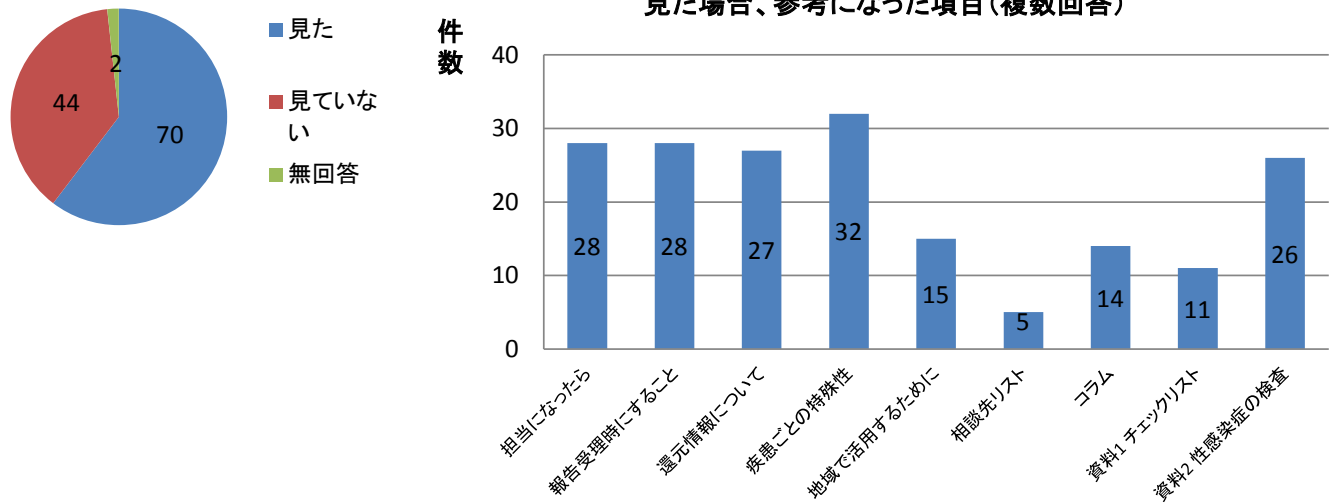
2. エイズの発生動向を下記関係者に届きやすいように配慮して還元／広報していますか



上記の例やその他の関係者:

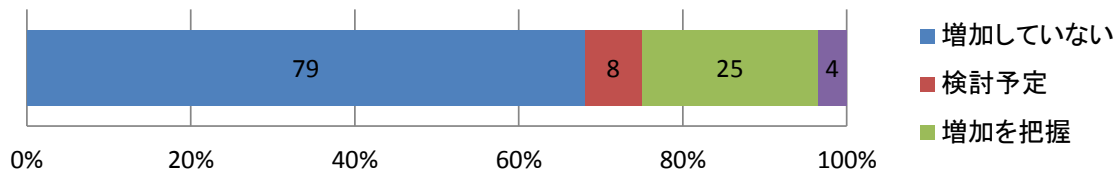
- 1 報道機関へ毎週投げ込み
- 2 都立高校
- 3 NPO/NGO等関係団体
- 4 エイズ診療協力病院
- 5 施設の研修会・協議会等で報告
- 6 学校(高校)と保健所が協働で行ったエイズ教育を報告書としてまとめ、その中にエイズ発生動向なども記載し配布説明している。
- 7 区内医療関係者に週毎の発生動向を情報提供。教育関係者を対象とした講演会の場で区の発生動向を情報提供。
- 8 区の発生動向調査週報をファクス配信している
- 9 区ホームページにて情報提供
- 10 関係機関を集め、年に1回会議を開催し情報を提供している
- 11 教育委員会、医師会へ通知
- 12 医療・教育・社会活動関係行政機関、県立病院、大学病院関係者等
- 13 県教育委員会
- 14 県医師会

3. 当研究班が作成した「性感染症発生動向調査活用ガイドライン」をご覧になりましたか

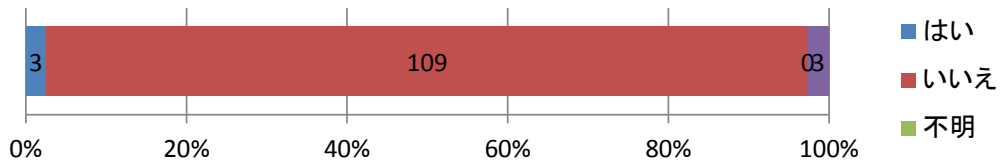


<集団発生について>

4. 貴自治体では梅毒報告の増加について検討されましたか



5. 平成25年に性行為による感染症(梅毒、B型肝炎、アメーバー赤痢やHIV感染症等)の集団発生や通常以上の増加(アウトブレイク)及びその疑いを把握したことがありますか



6. 集団発生したあるいは疑った疾患名は?

- A県 梅毒について、昨年の2倍以上、発生している
 B都 C型肝炎
 C市 アメーバ赤痢

7. その際、何らかの対応を行いましたか?(複数選択可)

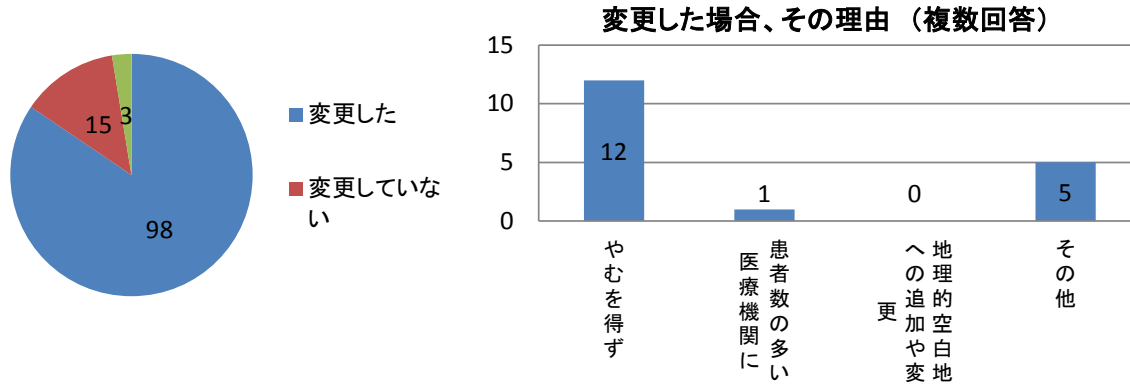
- 調査(感染経路等) 0
 対策(拡大防止等) 1
 行わなかった 2
 不明 0

具体的には:

- A都 エイズ診療拠点病院に対して情報提供と届出の徹底を文書で行った。

<定点設定について>

8. 性感染症の定点医療機関を平成25年度に変更しましたか



その他の内容:

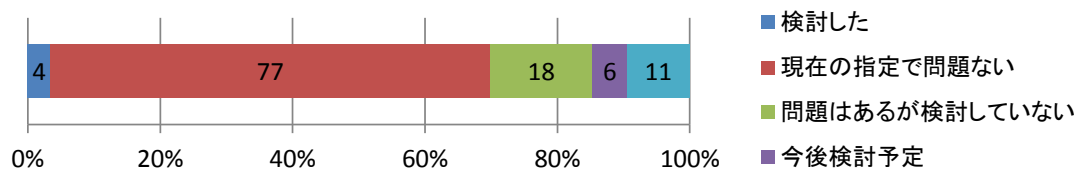
A県 協力が得られる医療機関に変更

B区 都が選定

C県 定期の見直し

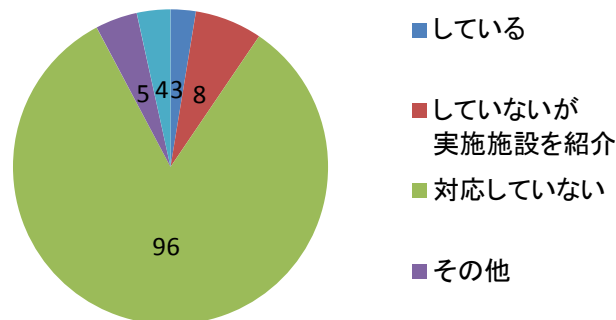
D県 H24.3.1付「感染症発生動向調査における性感染症の発生動向調査について」に基づいて見直し（定期的に見直している）

9. 対策に活用できる定点医療機関の指定について検討を行いましたか



<口腔を介しての感染について>

10. 保健所・特設検査での性感染症検査において口腔での感染について検査していますか



その他の内容:

A県 実施医療機関は把握していないが医療機関受診を勧めている

B市 当市では、HIV以外のSTI、B型肝炎の検査は実施していない

C市 イベント検査時のみ検査を実施

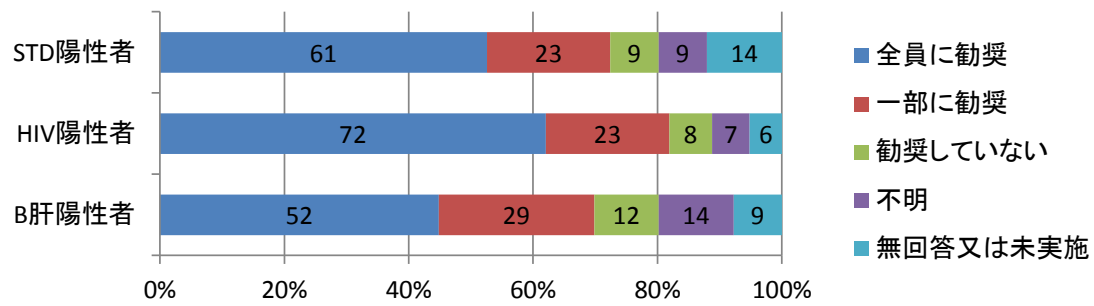
D市 厚労科研として大学と研究協力を行っている

E市 性器クラミジア、梅毒の抗体検査を実施している

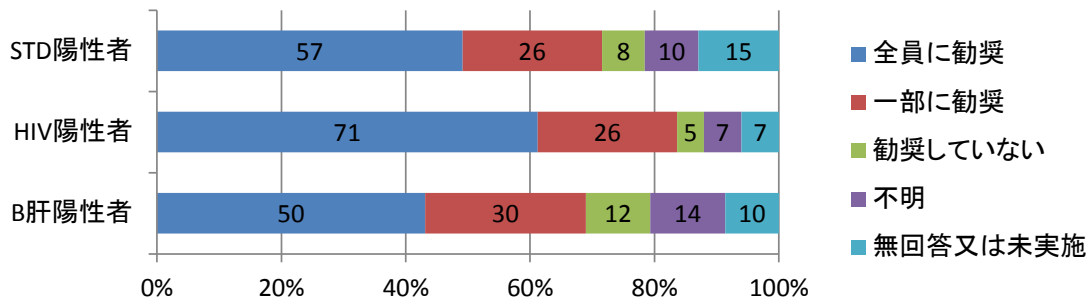
＜パートナーへの情報提供／検診について＞

11. 保健所・特設検査での性感染症(STD)/HIV/B型肝炎検査で陽性となった受検者に、

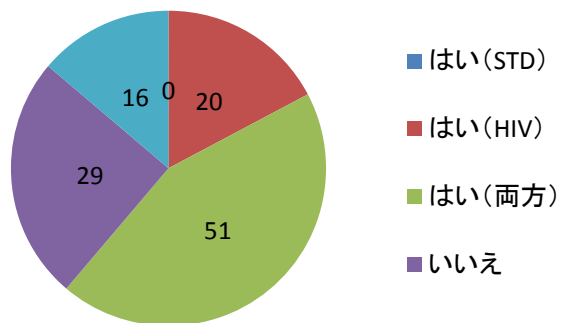
a) パートナーへの情報提供を依頼していますか



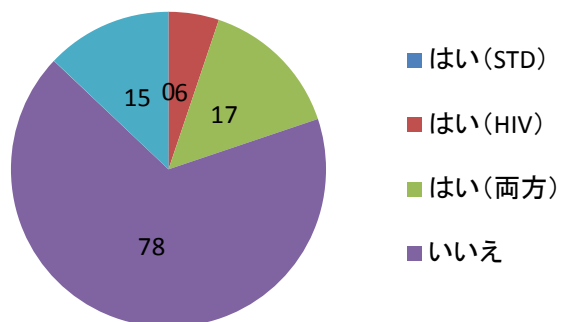
b) パートナーへの受検勧奨をしていますか



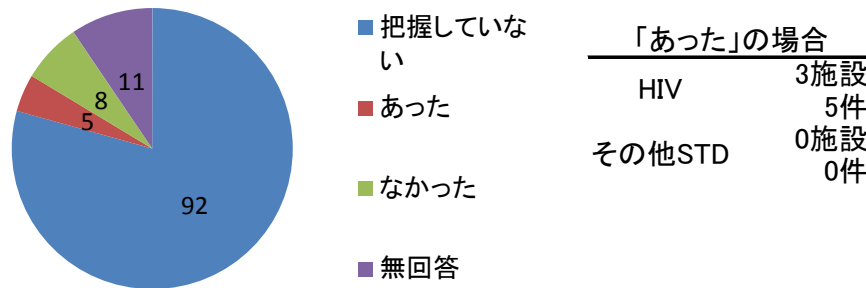
c) 勧奨の際に資料を用いていますか



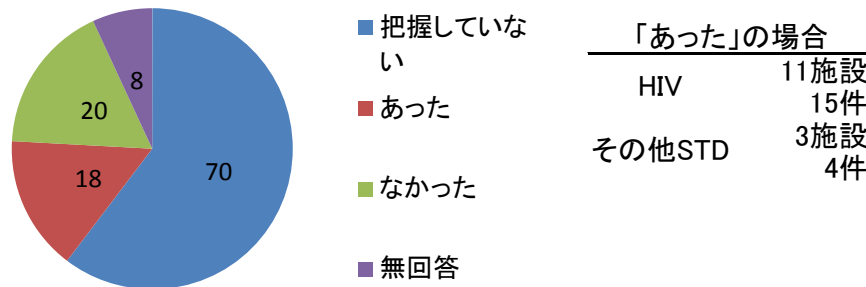
d) 勧奨の手順や要領を定めていますか



12. 勧奨の結果、パートナーの感染が分かった例がありましたか



13. パートナーの感染を動機として受検し、陽性であった例がありましたか



14. パートナーへの検査勧奨においてご意見があればご記載下さい

都道府県	A県	陽性、陰性に限らずパートナーへの検査勧奨は行うことが望ましい。
	B県	検査勧奨は重要と認識しているが、全員一律に実施できるものでないため、状況に応じて実施するものと考えている。
	C県	パートナーへは医療機関受診を勧めており、把握できない。
指定都市	A市	そもそもパートナーへの陽性告知を一律に勧奨するものではない。
	B市	HIVについて：告知の1回の面接で勧奨まで行うことは、本人の状況等にもよりケースバイケースである。
	C市	HIV陽性者に関しては本人の検査結果に対する受け止めもままならないケースが多くある。医療機関へ繋がることを第一優先としているため、パートナーへの勧奨まで行き着かないケースがほとんどである。
	D市	STD陽性者のパートナーには受検勧奨ではなく、一緒に受診勧奨をすることも多い。
	E市	パートナーへの情報提供や検査勧奨は状況に応じてカウンセラーが行う。
中核市	F市	陽性告知の際には勧奨することとしているが、ケースバイケースの対応なので、確実とは言えない。
	A市	HIV陽性者についてパートナーへの情報提供および受検勧奨については資料を配付しているが、具体的な勧奨は全員一律に実施できるものでなく受検者の受容状況に応じ対応している。STD陽性者へは受検者本人に医療機関受診勧奨をするとともに受検者が結果確認したらパートナーへの情報提供等が必要なことを説明している。
	B市	陽性者のうち、パートナーが不特定多数の場合が多く検査に結びつかないことが多い。
	C市	匿名検査のため、受検者の自己申告がなければ陽性者のパートナーであることの確認はできない。
	D市	パートナーが決まっていないケースもあるので、勧奨の伝え方を考えて伝えている。
	E市	陽性判明直後は本人の精神的フォローや医療機関につなげることを重要としており、本人が疾患を受けとめ正しく理解していないときにパートナーへの説明は今後の本人との関係がむずかしくなる。
	F市	特にHIV陽性告知時は、まず本人の受容を優先している。パートナーへの受検勧奨は、強制や重圧にならぬように注意し依頼をしている。
政令市	G市	匿名にて検査を実施しているため、把握まで至っておりません。
	A市	特にHIV陽性告知の場面では、まず本人が専門医療機関を受診できるように理解・納得してもらうことに十分な時間を要するため、パートナーの話にまで及ばない。
特別区	A区	匿名検査のため検査勧奨によってパートナーの感染がわかったかどうかを把握することが難しい。